

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
ちいさなてのひらでも	やなせたかし／著	双葉社	978-4-575-23744-3	自分が小さいということをととても気にしている人がいた。だからぼくはその人に言った。小さな手のひらでも幸せはつかめる…。現役漫画家・絵本作家・詩人のやなせたかしが贈る、希望と幸福のメッセージ集。	品,五
絶望の隣は希望です!	やなせたかし／著	小学館	978-4-09-388197-5	哀しみに負けそうなときは、手のひらを太陽に透かしてみよう! 東日本大震災で傷つき、大切なものを失ったすべての日本人へ贈る、アンパンマンの父・やなせたかしの魂のメッセージ。	品,崎
あきらめないで	やなせたかし／著	新日本出版社	978-4-406-05481-2	足みじかおじさんは目立たず無名で顔もさだかでないが、愛の悩みにもきちんと答えてくれる-。「アンパンマン」で知られる著者による、大人向けのショートメルヘン第2集。月刊誌『食生活』連載より選んだ36編を収録。	品
たそがれ詩集	やなせたかし／著	かまくら春秋社	978-4-7740-0440-2	足が弱くて すぐころぶ 耳は遠いし 眼はかすむ まいにちあぶない つなわたり(「老後のたのしみ」より) 50歳を過ぎてアンパンマンを産み、90歳の今なお現役のやなせたかしによる、大活字の詩画集。	品,井

品川区立源氏前図書館

やなせたかし
ブックリスト



令和7年6月

やなせたかし

今回は朝ドラ「あんぱん」のモデルとして話題のやなせたかしの作品を集めてみました。

漫画家、絵本作家のほかに詩人、編集者、作詞家、作曲家、脚本家、舞台演出家等多彩な分野で活躍。絵本以外の作品も数多く残しています。この機会に手に取ってみるのもいいのではないのでしょうか。

*内容部分は検索端末(OPAC)でもご覧いただけるもので、TRC MARCからの転載です。

所蔵館略称リスト

品：品川 二：二葉 荏：荏原 南：南大井 源：源氏前 井：大井
ゆ：ゆたか 五：五反田 崎：大崎 分：大崎分館 八：八潮
西：大崎西口

品川区立源氏前図書館

住所: 〒142-0053 東京都品川区中延4-14-17
電話: 03-3781-6273 FAX: 03-5702-4190
東急大井町線 「中延駅」「荏原町」 徒歩5分
<https://library.city.shinagawa.tokyo.jp/>

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
やなせたかし詩集	やなせたかし／著	河出文庫	978-4-309-42152-0	さびしさは ゆっくりとやってきて ぼくとならんで 腰をかけた あっちへいけといったのに いきなりぼくに しがみついた(「さびしい日」より) 星屑のようにきらめき続ける抒情詩人・やなせたかしの代表作をまとめる。	ゆ,井,崎 八,分
アンパンマンVSアンパンマン	やなせたかし／著 戸田恵子／著	フ レ ー バ ル 館	978-4-577-05280-8	1973年、『キンダーおはなしえほん』に「あんぱんまん」が掲載されてから半世紀。みんなに愛されているアンパンマンの作者・やなせたかしと、声優・戸田恵子によるアンパンマン対談を、24年ぶりに新装版として復刊。	品,井
わたしが正義について語るなら	やなせたかし／著	ポ プ ラ 新 書	978-4-591-18209-3	正義を生きるのは大変だけれども、その中で僕たちが目指すべき正義とは…。やなせたかしが、アンパンマンや、たくさんキャラクターを書く中で考えてきたことを語る。	品,崎,分
何のために生まれてきたの？	やなせたかし／著	PHP文庫	978-4-569-90406-1	現在とその未来をなるべく楽しく、なるべく面白く、生きたほうがいいんです。過去のことを、いくら考えてもしょうがない-。苦しい時もユーモアと好奇心を忘れなかったやなせたかしが語る、痛快人生論。	品,井,五

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
オイドル絵っせい 続	やなせたかし／著	フレーベル館	978-4-577-05317-1	やせても枯れてもミュージカル、とびつづけるアンパンマン、だれも知らない元気の秘密、究極のダン爺シルエット…。アンパンマンの生みの親・やなせたかしが日常をユーモラスに綴ったエッセイとイラストを収録する。	品
やなせたかし明日をひらく言葉	やなせたかし／[著] PHP研究所／編	PHP研 究 所	978-4-569-85691-9	「アンパンマン」「てのひらを太陽に」の父、やなせたかし。逆境でも希望を胸に進んできた彼の言葉を精選し紹介する。「アンパンマンのマーチ」「勇気の花がひらくとき」の詩も掲載。	井,五
あれはだれの歌	やなせたかし／著	瑞雲舎	978-4-907613-49-5	幻の名作物語「チリンの鈴」、感動の詩「えらくなっちゃいけない」、だれもが耳にしたことのある「てのひらを太陽に」…。やなせたかしの創り出した珠玉の詩・ストーリー・イラストを収録する。	品,井
アンパンマン伝説	やなせたかし／著	フレーベル館	978-4-577-05141-2	アンパンマンについて話すことはあるいは自分史と重なるかもしれない。アンパンマンの誕生から国民的キャラクターに成長するまでを、やなせたかしが自らの人生を交えて語る。詩とイラスト、貴重な写真も満載。	荏,崎,八

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
やなせたかしみんなの夢まもるため	やなせたかし／著 NHK取材班／著 ちばてつや／著 西原理恵子／著 里中満智子／著 吉田戦車／著	NHK出版	978-4-14-081644-8	子どもから大人まで絶大な支持を集めるアンパンマンの作者、やなせたかし。94歳で亡くなった本人の言葉と、彼を慕った漫画家たちの声、そして遺された詩とイラストを収録する。NHK番組の書籍化。	井
これじゃあ死ぬまでやめられない!	やなせたかし／著	フ レ ー ベ ル 館	978-4-577-04190-1	だれも知らない元気の秘密、究極のダン爺シルエット…。アンパンマンの生みの親・やなせたかしが日常を綴った、珠玉の絵っせい100編を収録。『高知新聞』連載「オイドル絵っせい」から抄録、編集して単行本化。	品,五
アンパンマンの遺書	やなせたかし／著	岩波現代文庫	978-4-00-602233-4	アンパンマンは人の心の一番やわらかい片隅から飛び立つ。アンチ・スーパーマンを育んだしなやかな人生を振り返るとともに、手塚治虫、永六輔、宮城まり子らとの交流模様を描く。遺稿「九十四歳のごあいさつ」も収録。	五,分
やなせたかし大全	やなせたかし／著	フ レ ー ベ ル 館	978-4-577-04150-5	アンパンマンの生みの親、やなせたかし。作家活動60年の軌跡を「漫画家」「絵本作家」「イラストレーター」「詩人」「編集者」などにわけ、多数のカラー作品とともに紹介する。ジクリー版画付き。	品

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
ぼくは戦争は大きい	やなせたかし／著	小学館	978-4-7780-3528-0	昭和15年から5年間、日本陸軍の兵隊だった。やなせたかしが、自らの戦争体験、軍隊体験を、軍隊や戦争そのものを批判するメッセージを込めたユーモアをまじえながら語る。	品,南,井
ボクと、正義と、アンパンマン	やなせたかし／著	PHP研究所	978-4-569-85151-8	戦争を経験した著者が考える、本当の正義とは。アンパンマンに思いを込めてメッセージを送り続けた、やなせたかしが、人の優しさ、心の痛み、生き方を綴った心温まるエッセイ集。「アンパンマンのマーチ」の歌詞も掲載。	源,品,荏,井,八
アリスのさくらんぼ	やなせたかし／著	復刊ドットコム	978-4-8354-5632-4	やなせたかし作品の礎といえる短編童話集。売れない漫画家とアンパンマンの出会いを描く「飛べ! アンパンマン」、森の一軒家で奇妙な研究にはげむサビ氏の物語「サビ氏の流星砲」など全7作品を収録する。	品,ゆ,井,八,分
やなせたかし おとうとものがたり	やなせたかし／詩・画	フレーベル館	978-4-577-04259-5	幼くして父を亡くし、母とも離ればなれになった、兄と弟。アンパンマンの作者・やなせたかしが、22歳で戦死した弟・千尋との思い出を詩と絵で綴る。未発表エッセイも収録。	品,二,五,八

タイトル	著者	出版社	ISBN	内容	所蔵館
アホラ詩集	やなせたかし／著	かまくら春秋社	978-4-7740-0587-4	人間なんて アホだから アホなことばかりして まもなく 絶滅 生き残るのは 蟻かゴキブリか(「予言」より) 50歳を過ぎてアンパンマンを産み、94歳の今なお現役のやなせたかしによる、大活字の詩画集。	品
十二の真珠	やなせたかし／著	復刊ドットコム	978-4-8354-4901-2	やなせたかしの初期作品集。元祖「アンパンマン」をはじめ、名作「チリンの鈴」など、心あたたまる珠玉の短編童話を12	品
93歳・現役漫画家。病気だらけをいっそ楽しむ50の長寿法	やなせたかし／著	小学館	978-4-09-388267-5	朝昼40回の腕立て伏せ、特製野菜スープ、快調快腸ビフィズス菌…。病気だらけなのに93歳で寝たきりにならず、毎日いきいき過ごしているやなせたかしの生き方、食事やサプリなどを、写真入りで具体的に紹介します。	五
人生、90歳からおもしろい!	やなせたかし／著	新潮文庫	978-4-10-138141-1	おそ咲きにしてもおそすぎた! 50代後半で大ブレイクし、後期高齢者となった今は、老人のアイドル「オイドル」を名乗る著者が、創作への情熱、そして生きる喜びをユーモラスに綴る。	荏